



特集 シェアサイクルについて—小平市及び近隣市の状況—

花小金井駅北口駐輪場の「レンタルサイクル」の幟を見て、利用状況が気になっていました。

今回「連」の特集に取り上げてはということで、「自転車スイスイ」の代表岩本博子さんにお話を伺いました。この団体は2002年、環境にやさしく経済的で健康な移動手段の自転車に注目し活動を始めた市民グループで、自転車が利用しやすいまちづくりを進めるため、啓発活動などに取り組んでいます。

レンタルサイクル（貸し自転車）は代金を払い借りた場所に返却するというのが一般的ですが、近頃はシェアサイクル（コミュニティーサイクル）が増えているということで、お会いする前に小平のシェアポート（ステーション）のいくつかを調べてくださっていました。（下表）

場 所	ステーション名	台数
青梅街道駅付近	青梅街道駅	14
	サンドラッグ小平店	4
一橋学園駅付近	スパークルⅡ	8
	セブンイレブン一橋学園東店	6
仲町	セブンイレブン小平仲町店	5
その他	7ステーション	28
合計	12ステーション	65

シェアサイクルは欧州発祥のサービスですが、米国や中国でも普及。日本ではまだ発展途上といえども2016年「自転車活用推進法」の制定をきっかけに注目されはじめたようです。高齢者には少しハードルが高いかも知れませんが、ICカードやスマホアプリを使い、手軽な操作で利用できるのも魅力です。駐輪場対策にもなることから自治体でも関心が

高まり、小平では「こだいら観光まちづくり協会」が導入準備を進めているとのこと。

小平市は起伏が少なく、自転車利用に適した土地柄ですが、多くが生活道路です。速度の出しすぎに注意し、一時停止などルールを守るとともに歩車双方の譲り合いも大切、と話してくださいました。たかが自転車、されど自転車。話を聞けば聞くほど、広がりや奥の深さに興味が湧きました。（取材：後々、長瀬、藤原）

参考1 持続可能な地域交通を考える会 井坂洋士氏『シェアサイクルの使い方』（車社会を問い直す会会報93号）より

「シェアサイクルは電車やバスを降りてから目的地までの移動、いわゆる「ラストワンマイル」と呼ばれる移動に適した隙間を埋めるための新しい交通サービスとして注目されている。CO²排出、化石燃料に依存しないエネルギー安全保障において、また土地利用が少ないことから渋滞対策においても市民の健康増進においても、都市が抱える政策課題に貢献する。このようにメリットが多く電車やバスと組み合わせ利用しやすいシェアサイクルサービスが都市の機能のひとつとして定着し充実することに期待したい。」

参考2 近隣市の状況

府中市では市、(社)まちづくり府中、地元企業(桜コマース)の協働で、「のりすけ」ブランドのサイクルシェア事業を展開しており、ステーションは市の施設49を含む79、自転車は電動アシスト付きで500台を超えている。その他の市の状況は次の通り。(市名、ステーション数(うち市施設)、自転車台数の順に示す。)

国分寺	16(10)、68台	国立	13(13)、83台	小金井	5(0)、20台	調布	16(16)、354台
稲城	12(9)、57台	武蔵野	4(0)、13台	三鷹	2(0)、7台		

事業者は4社ほどあるが、いずれもHELLO CYCLINGというシステムを利用しているため、市内はもちろん他市のステーションにも乗り捨て可能。料金は15分60円、1日1000円。

三鷹市では、三鷹駅周辺駐輪場の効率的な利用を図るため、全く別のタイプのサイクルシェア事業を、本年4月より開始。三鷹駅を利用して通勤・通学する人が対象で、自宅から駅までの利用者90人、駅から勤務先・通学先までの利用者90人、合計180人に同じ自転車・駐輪場を共同利用(シェア)してもらおうというもので、自転車は26インチシティサイクル、駐輪場は(株)まちづくり三鷹が指定管理者となっている三鷹駅南口サイクルシェア駐輪場。